「さいきの伝説と史跡・名勝」より（浅原関係抜粋）

編集　廿日市市河津原　今田　進

水神釜の猿猴　（伝承場所　本郷・鵜頭原）

廿日市市浅原の西を山口県岩国市美和町亀尾（さび）川方面から流れてくる川がある。この川は浅原の市野から本郷の亀山神社の脇まで東に流れ、津田の方から流れてくる木野川（小瀬川）に合流する川で、市野川という。

市野川が本郷地区に流れ出たところに桑原橋があり、その少し上流に、むかしから地元のひとたちが「水神釜」と呼ぶ淵がある。淵は河川工事のとき、往昔（おうせき）のおもかげを失ったが、かつては大変深い淵で、近くに住んでおられるMさんらが猿猴（河童）だった子どものころに潜ったが、底がわからないまま息が苦しくなって上がってきたという。

言い伝えによると、水神釜の底は、ここから直線距離にして、およそ一キロメートル南にある鵜頭原の大津の底と地中で絡（つな）がっており、猿猴が住んでいるという。

大津の淵は木野川が山口・広島両県に跨る小瀬川ダムに注ぎこむ市井原の北側にあり、二〇〇一年に架けられた新市井原橋の上から、よく眺めることができる。

注

1　鵜頭原は市井原橋のところにある小瀬川スポーツランド一帯をいい、一九六四年（昭和三九）小瀬川ダムができる以前には、三戸ばかりの民家と耕地があった。

2　市井原は小瀬川ダムに水没したが、以前は十五戸ばかりの民家と耕地があり、市井栗の産地として有名だった。いまも一部が残っている。

3　実際には絡がっていない淵や池および沼などの底が、遠く離れた別の淵などの底と絡がっているという言い伝えは各地にある。